



椎の木

令和8年度7月号

朝霞市立朝霞第八小学校

〒351-0012 朝霞市栄町5-1-4 1

TEL:048-465-8381

校長 岩崎 英雄

【目指す学校像】豊かな心で児童に未来を生き抜く力を育てる学校

『不易と流行』

6月は、台風の影響で臨時休校となったり、梅雨入り後は、天気や気温の変化が激しく、体調管理の難しい月となりました。子供たちも、寒暖の差が激しかったせいか、体調を崩す子どもが多かったと感じています。保護者の皆様におかれましては、2週間にわたって行われた、個人面談に足をお運びいただきまして、ありがとうございました。また、その期間中には校内硬筆展も開催され、集中して取り組んだ子供たちの力作もご覧いただけたと思います。

さて、1学期も早いもので、残すところ3週間となりました。今月は学校における「不易と流行」について触れたいと思います。「不易流行」とは、「松尾芭蕉が『奥の細道』の旅を通じて到達した、蕉風（しょうふう）俳諧の理念の一つで、時代を超えて変わらない本質（不易）を守りながら、日々変化する新しい感性（流行）を柔軟に取り入れること。この2つは『根本は1つ』である。」

とする考え方です。では、学校における「不易」とは何か。教育課程に位置付けられた各教科の授業をはじめ、特別活動の各種行事、道徳教育等の教育活動であると考えます。また、学校は安心・安全な場所でなければなりません。そのために、子供たちが安心して学校に通うことができるよう「いじめ」等の諸課題の解決や施設・設備の事故防止、各種非常時の対応・避難訓練等にも取り組んでいます。授業規律をはじめ、挨拶、廊下歩行、清掃、下駄箱のかかと揃え等の「基本的な生活習慣」や「規律ある態度」の指導も学校における「不易」の一つです。



環境集会での除草作業

一方、学校における「流行」とは何か。昨今の教育改革の中で国や県が推進している取組等の教育活動を指すと考えます。例えば、これまでも「GIGAスクール構想」による「一人1台のタブレット端末」の導入、「新しい時代の学びの環境の整備」の一環として「35人学級（現在は中学校で）」の導入、家庭・地域の教育力向上の施策として「学校運営協議会」の設置の推進等々の取組が行われてきました。本校においても、授業内容に応じて教室でタブレット端末を活用し、日々進化するソフト等を活用しながら、調べ学習をしたり調べたことをまとめたり、意見交換や考えを共有しながら学習に取り組んでいます。さらにこれからは、活用が広がっている「ChatGPT」や「Gemini」といった生成AIについても、学んでいかななくてはならないと考えています。まずは、生成AIの正しい理解や活用方法について、学校でも学びの場を提供できるよう計画を進めています。

このように、大きな教育改革や社会の変化といった流れの中で、「不易」の部分は引き続き充実させていくことが必要ですし、「流行」の部分は、単なる流行りで終わらせるのではなく、「流行」が「不易」に昇華するよう工夫や改善を加え、不易の中に流行を取り入れ、学校における「不易の本質」を追求していきたいと考えます。



「八枚のはね」の皆さんによる家庭科のサポート



音楽朝会での6年生らしいハーモニーの合唱